

平成 29 年度 自己評価結果公表シート

学校法人清明学園

幼保連携型認定こども園さつなえのもり

1. 本園の教育・保育目標

「豊かな保育を通して、生きる力を育てる」 (やさしい子、かしこい子、つよい子)

- ・豊かな人間関係がつかれ、思いやりのある子
- ・何事にも関心を示し、意欲的で想像力と創造性の豊かな子
- ・健康な心身を持ち強い意志と自立心と自律性のある子

2. 今年度の重点目標

「一人一人が集団の中で育ち合う、豊かな保育環境作りを目指す」

子ども一人一人の個性を尊重し、子どもが自分で考え、判断し、行動するという自発的で主体的な活動を納得いくまで取り組めるようにすると共に、乳幼児期こそ育つ豊かな感性を最大限伸ばしていけるような保育環境作りを目指していく。

3. 評価結果及び改善策

(1) 「全体的な計画」に基づく保育の計画性について

[幼児部]

- ・全体的な計画と指導計画との関連性についての理解を深めた。
- ・余裕をもって指導計画を立て、見通しを持って保育を行った。
- ・活動ごとに導入を工夫し、子どもが意欲をもって取り組める保育を行うことができた。

[乳児部]

- ・園の教育方針に基づき子どもの実態や状況を踏まえた計画を作成し、子どもに負担なく過ごすことができた。
- ・担当保育教諭を中心に安心感、信頼関係を基盤として無理なく保育計画を進めていった。

(2) 保育のあり方、幼児への対応について

[幼児部]

- ・一人一人の成長や発達を理解し、それぞれにあった対応を心掛けた。
- ・子ども自身がいろいろなことに挑戦し、自信をもてるような場をつくり援助の仕方に配慮した。
- ・要支援児に対して安心して園生活を送れるような環境やかかわり方や会議の持ち方の工夫を行った。

[乳児部]

- ・「子どもの気持ちが動いてから」という気持ちで子ども達に接するよう心がけた。
- ・一人一人の個性に応じてかかわり方を工夫しながら保育を行うことができた。

(3) 研修と研究について

[幼児部]

- ・乳児部との合同研修会を通して幼保連携型認定こども園としての教育・保育の意味を確認できた。
- ・園内環境作りについてのワークショップなどで子どもが遊び込める環境について研究を深めた。

[乳児部]

- ・園内研修を通して、乳児部と幼児部の活動内容をお互いに知ることができ職員同士の交流も深めることができた。
- ・様々な研修に参加し、乳児保育を学び理解を深めることができた。

(4) 保護者への対応について

[幼児部]

- ・保護者の不安が強い時期にはこまめに連絡をとり、話を聞くように努めた。
- ・言葉を選び、礼儀を忘れず落ち着いて対応できるように努めることができた。
- ・保護者と連携を取りながら子どもの成長を見守ることができたが、十分な連携や連絡をとることが難しい家庭もあった。

[乳児部]

- ・日々の送迎時、連絡帳などのほか参観・懇談などの行事で子どもの様子を伝え成長を共に喜び合うことができた。
- ・保護者の気持ちにも寄り添いながら丁寧な対応を心がけた。

(5) 自然や社会とのかかわりについて

[幼児部]

- ・挨拶などを通して、近隣地域の人とのコミュニケーションを図ることができた。
- ・「森のようちえん」や「自然遊び」等を通して、自然や人との関わりを深めることができた。
- ・地域の小・中学校との交流を通して異年齢との関わりをもちいい経験になった。

[乳児部]

- ・戸外遊びや散歩時に自然物に触れることで季節を身近に感じる事ができた。
- ・散歩途中や公園などで地域の方々に積極的に挨拶をするよう努めた。

4. 関連事業

○一時預かり事業の実施

○地域への開放、子育て支援事業の実施 「あそぼうデー」～年8回

○未就園児教室「こあらクラブ」火・水・金 年間22回

○幼小の連携～札幌北・札幌小学校との交流